

4. 受益者あたりの事業費

受益者	イベント参加者延べ人数	単位	R4	R3	R2	R4-R3比較
区分	受益者数・・・⑤	人	52,102	152	40	51,950
	受益者あたりの事業費・・・①/⑤	円	0	53	91	▲ 53

5. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値	単位	R4	R3	R2	R1
交流イベント回数	回	3	2	1	2
<<変化の理由>> 令和2年度及び令和3年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大懸念から訪問事業が中止となったが、令和4年度に但馬まるごと感動市inあさごへの参加が再開されたため。					
【2】事業の成果を表す数値	単位	R4	R3	R2	R1
イベント参加者数(延べ)	人	52,102	152	40	32,340
<<変化の理由>> 令和2年度及び令和3年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大懸念から訪問事業が中止となったが、令和4年度に但馬まるごと感動市inあさごへの参加が再開されたため。					

6. 今後の方向等

現在認識している課題	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の交流で、吉崎市との友好都市提携は少しずつ認知されるようになったが、両市内において、市内全域の認知度は高くない。 ・関係する東河地区の活動により、東河小学校児童の吉崎市訪問が継続実施され、地域での活動に広がりが見える一方、吉崎市は遠方のため、経済交流、市民交流を推進する上で、輸送費、交通費の負担が大きい。
今後の方向、見通し、対応策等	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、関係団体との連携を図り、双方の交流を支援する。 ・交流のきっかけとなった「小山弥兵衛と心諒尼の物語」は、史実に基づき、家族愛がテーマの壮大な物語で、PRパンフレット等により物語を周知し、両市の交流の認知度を高めるとともに、友好都市提携に基づき市内での交流促進を図る。

7. 一次評価

評価	評価理由
○ 拡充	史実をきっかけに始まった市民同士の相互交流が続く限り、引き続き支援が必要である。
○ 継続	
○ 改善	
○ 縮小・段階的廃止	
○ 廃止	

8. 外部評価

評価	評価理由
○ 拡充	
○ 継続	
○ 改善	
○ 縮小・段階的廃止	
○ 廃止	

9. 二次評価

評価	評価理由
○ 拡充	
○ 継続	
○ 改善	
○ 縮小・段階的廃止	
○ 廃止	

事務事業名	生涯学習推進員設置事業	担当部課	まちづくり協働部 生涯学習課	
予算コード	10 - 04 - 01 - 03 - 01	担当者名	村上 泰啓、福島 克史	
総合計画体系	1.「やりたい」につながる多様な学びで、未来をつくる「人」を育む	事業開始年度	評価区分	評価
	4.まちにも活きる生涯学習・スポーツの推進	H 17	事業種別	ソフト事業

1.事務事業の目的、成果、手段

目的 (何のために)	○生涯学習推進員の配置等により、地域における自主的な生涯学習活動を促進し、学習成果を活かした活力ある地域づくりを推進する。
成果 (どのような成果を期待するか)	○生涯学習を通じた学習成果の地域等への還元、生涯学習に係る人材の増加及び地域の活性化
手段 (どんな事業を実施して) 【事業内容】	○青少年健全育成パトロール(コロナの影響や夏祭りの中止等により未実施) ○生涯学習推進員連絡協議会学習会(7月26日開催 講師:藤尾貴洋氏) ○生涯学習講演会の開催(12月18日開催 講師:渡貫淳子氏) ○あらゆる学びのニーズに対応するため、生涯学習に関する多様な人材の発掘

2. 事業費等の推移(単位:円)

節区分	説明等	R4	R3	R2	R4-R3比較
7.報償費	講師謝礼等	626,660	885,000	739,000	▲ 258,340
10.需用費	食糧費	1,335	179,795	229,660	▲ 178,460
11.役務費				30,622	
12.委託料	駐車場整理業務委託料	6,793			6,793
事業費総額...①		634,788	1,064,795	999,282	▲ 430,007
財源内訳	特定財源 国庫支出金				
	県支出金				
	地方債...②				
	その他...③				
一般財源...④		634,788	1,064,795	999,282	▲ 430,007

3. 一般財源等の額及び割合

一般財源等の額...②+③+④	634,788	1,064,795	999,282
事業費総額に占める一般財源等の割合...((②+③+④)/①)	100.0%	100.0%	100.0%

4. 受益者あたりの事業費

受益者	市民	単位	R4	R3	R2	R4-R3比較
区分	受益者数・・・⑤	人	28,516	28,971	29,525	▲ 455
	受益者あたりの事業費・・・①/⑤	円	22	37	34	▲ 14

5. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値	単位	R4	R3	R2	R1
学習会等の開催回数	回	1	-	-	2
生涯学習講演会の開催回数	回	1	-	-	1
<<変化の理由>> ・コロナ禍以降2年間、対面での開催を取り止めてきたが、令和4年度は学習会、生涯学習講演会を3年ぶりに開催した。					
【2】事業の成果を表す数値	単位	R4	R3	R2	R1
学習会等の参加者	人	70	-	-	110
生涯学習講演会(教育講演会)の聴講者	人	121	-	-	380
<<変化の理由>> ・コロナ禍以降2年間、対面での開催を取り止めてきたが、令和4年度は学習会、生涯学習講演会を3年ぶりに開催した。					

6. 今後の方向等

現在認識している課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各区に1名の生涯学習推進員を設置しているが、区の高齢化や人口減少により選出しにくい地区が生じてきている。 ・地域自治協議会との連携強化を図り、市民の自主的な生涯学習活動を推進していく必要がある。
今後の方向、見通し、対応策等	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の生涯学習推進員のあり方を検討していく。 ・地域における生涯学習を推進していくため、地域自治協議会等との連携強化を検討していく。

7. 一次評価

評価	評価理由
○ 拡充	・地域での自主的な生涯学習活動を充実させるためには、生涯学習推進員の役割は重要であり、そのあり方や地域自治協議会との連携を検討しつつ継続実施する。
○ 継続	
○ 改善	
○ 縮小・段階的廃止	
○ 廃止	

8. 外部評価

評価	評価理由
○ 拡充	
○ 継続	
○ 改善	
○ 縮小・段階的廃止	
○ 廃止	

9. 二次評価

評価	評価理由
○ 拡充	
○ 継続	
○ 改善	
○ 縮小・段階的廃止	
○ 廃止	

事務事業名	成人式開催事業	担当部課	まちづくり協働部 生涯学習課	
予算コード	10 - 04 - 01 - 06 - 01	担当者名	村上 泰啓、福島 克史、坂本 理佳	
総合計画体系	1.「やりたい」につながる多様な学びで、未来をつくる「人」を育む	事業開始年度	評価区分	評価
	4.まちにも活きる生涯学習・スポーツの推進	H 17	事業種別	ソフト事業

1.事務事業の目的、成果、手段

目的 (何のために)	○二十歳の門出を祝い、「ふるさと朝来市」の良さを再認識する機会の創出や若者リーダーの養成を図る。
成果 (どのような成果を期待するか)	○地域社会が若年者の大人としての門出を祝福する機会 ○「ふるさと朝来市」を再認識する場、また地元定着化を育てていく場としての活用
手段 (どんな事業を実施して) 【事業内容】	○対象者(平成14年4月2日～平成15年4月1日生まれの者)の有志による実行委員会の開催 4回 実行委員10名(二十歳のつどいの企画・運営について検討) ○令和5年1月8日開催 (232名参加) ・二十歳を祝う会(記念式典) オープニング(朝来市青少年少女オーケストラ) 式辞、祝辞、謝辞 ・二十歳のつどい 吉本芸人によるお笑いライブ、実行委員会による企画(恩師へのインタビュー・クイズ) ・記念写真撮影 中学校区単位で撮影

2. 事業費等の推移(単位:円)

節区分	説明等	R4	R3	R2	R4-R3比較
7.報償費	記念品代、協力者謝礼等	195,800	208,600	214,600	▲ 12,800
8.旅費				5,480	
10.需用費	消耗品費	211,191	55,741	67,859	155,450
11.役務費	通信費、手数料	508,000	78,000	78,000	430,000
12.委託料	駐車場整理業務、デザイン業務委託料	41,813	85,813	19,813	▲ 44,000
13.使用料及び賃借料	テント等借上料	242,990	243,870	234,190	▲ 880
17.備品購入費				39,600	
事業費総額・・・①		1,199,794	672,024	659,542	527,770
財源内訳	特定財源				
	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債・・・②				
その他・・・③					
一般財源・・・④		1,199,794	672,024	659,542	527,770

3. 一般財源等の額及び割合

一般財源等の額・・・②+③+④	1,199,794	672,024	659,542
事業費総額に占める一般財源等の割合・・・(②+③+④)/①	100.0%	100.0%	100.0%

4. 受益者あたりの事業費

受益者	対象者数	単位	R4	R3	R2	R4-R3比較
区分	受益者数・・・⑤	人	295	296	328	▲ 1
	受益者あたりの事業費・・・①/⑤	円	4,067	2,270	2,011	1,797

5. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値	単位	R4	R3	R2	R1
参加者数	人	232	225	251	274
二十歳のつどい(成人のつどい)実行委員会の開催数	回	4	3	5	4
<<変化の理由>> ・生まれ年により対象者が増減するため、出席者数も比例して増減する。 ・二十歳のつどい実行委員会を必要に応じて必要に応じて4回開催した。					
【2】事業の成果を表す数値	単位	R4	R3	R2	R1
二十歳を祝う会(成人式)出席率	%	78.6	76.0	76.5	79.4
二十歳のつどい(成人のつどい)実行委員の数	人	10	5	3	10
<<変化の理由>> ・生まれた年により対象者が増減するが、出席率はおおむね8割弱程度で推移している。					

6. 今後の方向等

現在認識している課題	・開催年度により二十歳のつどい(成人のつどい)実行委員会の委員数や会議出席率等に差が生じている。
今後の方向、見通し、対応策等	・法律改正により成人年齢が18歳となったが、これまで同様に対象年度に20歳を迎える方を対象とした式典及びつどいを開催していく。 ・例年和田山ジュピターホールを会場としているが、令和6年度に大規模改修工事が行われるため、令和5年度中に開催場所を検討していく。

7. 一次評価

評価	評価理由
○ 拡充	・対象者の社会参加への自覚を高め、「ふるさと朝来市」への誇りや愛着を再認識する人財育成の場であり、継続実施する。
○ 継続	
○ 改善	
○ 縮小・段階的廃止	
○ 廃止	

8. 外部評価

評価	評価理由
○ 拡充	
○ 継続	
○ 改善	
○ 縮小・段階的廃止	
○ 廃止	

9. 二次評価

評価	評価理由
○ 拡充	
○ 継続	
○ 改善	
○ 縮小・段階的廃止	
○ 廃止	

令和 5 年度

区分
予算
決算 1

行政マネジメント事務事業シート (R 4 決算)

作成・更新日
令和 5 年 6 月 9 日
主要 創生 1

事務事業名	社会体育事業(全市)	担当部課	まちづくり協働部 生涯学習課	
予算コード	10 - 05 - 01 - 05 - 01	担当者名	村上 泰啓、佐藤 晃一	
総合計画 体系	1.「やりたい」につながる多様な学びで、未来をつくる「人」を育む	事業開始年度	評価区分	評価
	4.まちにも活きる生涯学習・スポーツの推進	H 17	事業種別	ソフト事業

1. 事務事業の目的、成果、手段

目的 (何のために)	○スポーツを通じた健康増進と市民の交流を図る。
成果 (どのような成果を期待するか)	○市民相互の新たな連携の促進 ○地域の一体感や活力の醸成
手段 (どんな事業を実施して) 【事業内容】	○第18回朝来市民ソフトボール地区選抜大会(6月12日 5チーム75名参加) ○第18回朝来市長杯バレーボール大会(6月26日 9チーム、86名参加) ○第10回朝来市民交流ソフトボール大会(10月2日 5チーム、62名参加) ○第18回朝来市民軟式野球大会(10月23日 参加チーム数不足のため、中止) ○2022あさご市スポレク大会(11月20日 実人数121名、延べ939名が参加) ○朝来市民スキー・スノーボード教室(1月22日 67名参加)

2. 事業費等の推移(単位:円)

節区分	説明等	R4	R3	R2	R4-R3比較
7.報償費	大会副賞、事業協力者謝礼	472,134	265,290		206,844
10.需用費	消耗品費、食糧費	144,714	126,327	50,485	18,387
11.役務費	保険料	46,390	50,950	51,800	▲ 4,560
13.使用料及び賃借料	バス借上料	212,400			212,400
事業費総額・・・①		875,638	442,567	102,285	433,071
財源内訳	特定財源				
	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債・・・②				
	その他・・・③	166,000	26,000		140,000
	一般財源・・・④	709,638	416,567	102,285	293,071

3. 一般財源等の額及び割合

一般財源等の額・・・②+③+④	875,638	442,567	102,285
事業費総額に占める一般財源等の割合・・・(②+③+④)/①	100.0%	100.0%	100.0%

4. 受益者あたりの事業費

受益者	大会・教室参加者数	単位	R4	R3	R2	R4-R3比較
区分	受益者数・・・⑤	人	411	357	—	54
	受益者あたりの事業費・・・①/⑤	円	2,131	1,240	#VALUE!	891

5. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値	単位	R4	R3	R2	R1
大会・教室実施回数	回	5	5	—	4

《変化の理由》

・コロナ禍による感染者数等、状況を見ながら大会等を実施したことによる。

【2】事業の成果を表す数値	単位	R4	R3	R2	R1
大会・教室参加者数	人	411	357	—	379

《変化の理由》

・コロナ禍による感染者数等、状況を見ながら大会等を実施したことによる。

6. 今後の方向等

現在認識している課題	・コロナ禍の影響によりスポーツ活動の継続が難しかったことから、スポーツを止めてしまった市民や団体があり、参加者の確保が難しくなっている。
今後の方向、見通し、対応策等	・スポーツ関係団体、市民の意見も聞きながら、実施事業について精査していく。

7. 一次評価

評価	評価理由
○ 拡充	・参加者の確保が難しくなっている中、実施事業を精査しつつ継続実施する。
○ 継続	
改善	
縮小・段階的廃止	
廃止	

8. 外部評価

評価	評価理由
拡充	
継続	
改善	
縮小・段階的廃止	
廃止	

9. 二次評価

評価	評価理由
拡充	
継続	
改善	
縮小・段階的廃止	
廃止	

事務事業名	朝来地域交流・活性化事業	担当部課	朝来支所	
予算コード	02 - 01 - 13 - 22 - 01	担当者名	足立 尚幸、則定 澄美、池埜 麻彩	
総合計画体系	3.多様なつながり・交流を育み、地域力をより高める	事業開始年度	評価区分	評価
	16.まちを応援する関係人口の創出	H 17	事業種別	ソフト事業

1.事務事業の目的、成果、手段

目的 (何のために)	<ul style="list-style-type: none"> ・市内外の交流活動を活発化させるため ・小学生が地元の農産物の岩津ねぎを通して地域を知るため
成果 (どのような成果を期待するか)	<ul style="list-style-type: none"> ・朝来市民の朝来市へのまちづくり活動に対する連帯感の醸成に貢献する。 ・地元小学生の朝来市への誇りや愛着を育むことに貢献する。 ・市外の方の朝来市へのまちづくり活動に対する応援者を増加させることに貢献する。
手段 (どんな事業を実施して)	<ul style="list-style-type: none"> ○朝来特産品PR事業 <ul style="list-style-type: none"> ・地元小学生に郷土の特産品岩津ねぎを理解してもらうため、中川小学校及び山口小学校と地元農家等とも連携し、植付け・収穫体験を実施した。 ○朝来ふれあい元気まつり <ul style="list-style-type: none"> ・朝来地域内外の交流と物流の活性化を目指し交流イベントを実施した。また、朝来地域自治協議会を始めとして、各種団体が参加した。 ・文化協会実施の文化祭「あさご劇場」と同日開催した。 <p>【事業内容】</p> <p>※下記の事業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ふるさと朝来会との交流事業 <ul style="list-style-type: none"> ・あさご町交流協会と共催で、朝来市の情報を発信することで、朝来地域ゆかりの方々との交流を深める。

2. 事業費等の推移(単位:円)

節区分	説明等	R4	R3	R2	R4-R3比較
7.報償費	事業協力者謝礼等	77,256	40,000	40,000	37,256
8.旅費				8,610	
10.需用費	岩津ねぎ苗、ふれあい元気まつり消耗品等	52,091	86,130	28,364	▲ 34,039
11.役務費	郵送料、傷害保険料、チラシ折込手数料等	40,065	48,000		▲ 7,935
12.委託料	岩津ねぎ体験圃場作物管理料	60,000	60,000	60,000	
13.使用料及び賃借料	テント設営費等	139,700			139,700
事業費総額・・・①		369,112	234,130	136,974	134,982
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債・・・②				
	その他・・・③				
一般財源・・・④		369,112	234,130	136,974	134,982

3. 一般財源等の額及び割合

一般財源等の額・・・②+③+④	369,112	234,130	136,974
事業費総額に占める一般財源等の割合・・・(②+③+④)/①	100.0%	100.0%	100.0%

4. 受益者あたりの事業費

受益者	イベント等参加者	単位	R4	R3	R2	R4-R3比較
区分	受益者数・・・⑤	人	1,282	304	338	978
	受益者あたりの事業費・・・①/⑤	円	288	770	405	▲ 482

5. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値	単位	R4	R3	R2	R1
朝来特産品PR事業体験学習開催回数	回	4	4	4	4
<<変化の理由>> ・中川小学校と山口小学校に対して、植付と収穫体験学習事業をそれぞれ実施しており変化はない。					
【2】事業の成果を表す数値	単位	R4	R3	R2	R1
朝来特産品PR事業体験学習参加者数	人	282	304	338	358
朝来ふれあい元気まつり来場者数	人	1,000			2,000
<<変化の理由>> ・朝来地域小学校の児童数の減少による体験学習参加者数の減。 ・新型コロナウイルス感染症の規制緩和による朝来ふれあい元気まつりの参加者数の皆増。					

6. 今後の方向等

現在認識している課題	<ul style="list-style-type: none"> ・朝来地域自治協議会、各種団体の主体的な活動につなげていく必要がある。 ・播磨町やふるさと朝来会との交流について、先方の参加者の高齢化によって継続が難しくなっている。
今後の方向、見通し、対応策等	<ul style="list-style-type: none"> ・播磨町との交流は、従前から行っていたチャレンジ教室(小学生を主体とした交流事業)をアフターコロナの事業として調整することによって継続していく。 ・ふるさと朝来会は、会員の高齢化などから会の継続が難しくなってきたとの申し出があった。あさご町交流協会役員と連携しながら、今後調整を行っていく。

7. 一次評価

評価	評価理由
○ 拡充	【朝来ふれあい元気まつり】 ・文化祭と同時開催することで、幅広い年齢層の町民が交流を深めることに寄与できた。コロナの規制緩和後のイベントの実施方法について出展者を交えて検討する必要がある。 【朝来特産品PR事業】 ・小学生の時期から、朝来市の特産品である岩津ねぎの栽培を体験することによって郷土愛を深めることができるため、引き続き継続実施する必要がある。
○ 継続	
○ 改善	
○ 縮小・段階的廃止	
○ 廃止	

8. 外部評価

評価	評価理由
○ 拡充	
○ 継続	
○ 改善	
○ 縮小・段階的廃止	
○ 廃止	

9. 二次評価

評価	評価理由
○ 拡充	
○ 継続	
○ 改善	
○ 縮小・段階的廃止	
○ 廃止	

4. 受益者あたりの事業費

受益者	市民で構成される各種団体	単位	R4	R3	R2	R4-R3比較
区分	受益者数・・・⑤	団体	23	22	23	1
	受益者あたりの事業費・・・①/⑤	円	112,815	99,397	90,991	13,419

5. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値	単位	R4	R3	R2	R1
集団回収実施回数	回	62	53	55	62
<<変化の理由>> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施回数減少していたが、令和4年度はほとんどの団体で計画どおり実施された					
【2】事業の成果を表す数値	単位	R4	R3	R2	R1
集団回収量(紙類)	t	588	495	536	702
集団回収量(ビン類)	本	1,171	696	1543	1489
<<変化の理由>> ・集団回収実施団体の弱体化 ・新聞、雑誌、ビン類等の利用・使用が減少していると推測					

6. 今後の方向等

現在認識している課題	・少子高齢化に伴い、事業の継続が困難な団体がある
今後の方向、見通し、対応策等	・地域づくりやリサイクルの意識啓発の促進をする事業であり、引き続き集団回収団体の支援を行う ・実施団体を通じて広くごみ減量や資源循環について啓蒙していき、事業自体についても周知を図っていく

7. 一次評価

評価	評価理由
○ 拡充	・現状の事業を継続的に実施する ・PTA・地区などのリサイクルへの意識の向上及び市の計画収集の効率化を図るために継続が必要
○ 継続	
○ 改善	
○ 縮小・段階的廃止	
○ 廃止	

8. 外部評価

評価	評価理由
○ 拡充	
○ 継続	
○ 改善	
○ 縮小・段階的廃止	
○ 廃止	

9. 二次評価

評価	評価理由
○ 拡充	
○ 継続	
○ 改善	
○ 縮小・段階的廃止	
○ 廃止	

4. 受益者あたりの事業費

受益者	サービス利用者	単位	R4	R3	R2	R4-R3比較
区分	受益者数・・・⑤	人	359	362	369	▲ 3
	受益者あたりの事業費・・・①/⑤	円	32,233	34,515	28,762	▲ 2,283

5. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値	単位	R4	R3	R2	R1
サービス利用者数	人	359	362	369	362

《変化の理由》

利用者数はここ近年ほぼ一定である。
対象者は年度毎に更新して認定の見直しを行っているが、一度認定されると長期入院・施設入所や死亡以外に減る事例は殆ど無い。

【2】事業の成果を表す数値	単位	R4	R3	R2	R1
延べ利用回数	回	3,789	3,990	3,631	3,990

《変化の理由》

R1年度までは利用回数は増加傾向であったが、R2年度は少し減少したが、ほぼ横ばいで推移している。

6. 今後の方向等

現在認識している課題	平成26年度に、公費負担率の区分ごとに公費負担限度額を設定を行う改正をしたことに伴い公費負担は減少したが、それから10年が経過しようとする中で、利用者数や利用形態、利用金額等の利用状況の現状を把握し、事業内容を見直していく必要がある。
今後の方向、見通し、対応策等	外出困難な方への医療機関への移送支援は引き続き必要であり、補助を継続する必要がある。

7. 一次評価

評価	評価理由
○ 拡充	一般の交通機関が利用できない外出困難な者の通院及びリハビリ等を支援する必須事業であり、継続実施とする。
○ 継続	
○ 改善	
○ 縮小・段階的廃止	
○ 廃止	

8. 外部評価

評価	評価理由
○ 拡充	
○ 継続	
○ 改善	
○ 縮小・段階的廃止	
○ 廃止	

9. 二次評価

評価	評価理由
○ 拡充	
○ 継続	
○ 改善	
○ 縮小・段階的廃止	
○ 廃止	

事務事業名	小学校特色ある学校づくり事業	担当部課	教育委員会事務局 学校教育課		
予算コード	10 - 02 - 02 - 22 - 01	担当者名	山本 喜裕、福田 秀則、土江 彩		
総合計画体系	1.「やりたい」につながる多様な学びで、未来をつくる「人」を育む	事業開始年度	評価区分	評価	
	2.生きる力を育む幼児教育・学校教育の推進	H 17	事業種別	ソフト事業	

1.事務事業の目的、成果、手段

目的 (何のために)	児童が地域の「歴史」「文化」「人」「産業」に目を向けることにより、「ふるさと愛の醸成」を図る。
成果 (どのような成果を期待するか)	「ふるさと朝来の未来を担う人づくり」をめざし、各学校で、ふるさとの豊かな自然や伝統文化、そこに暮らしている人々との触れ合いを通して、あさごの良さを知り、それを発信して力を育成することができる。
手段 (どんな事業を実施して) 【事業内容】	児童に「生きる力」を培うことを目的として、それぞれの学校で特色ある実践事業を展開した。 各学校で、地域教材を活用し、地域に住む人々あるいは自然や歴史的な遺産等に触れる体験を通して、自尊感情や郷土愛の向上を図った。 広く社会で活躍されている地域の専門家、大学教授や一般企業の方などを学校に招聘し、専門的な授業や講演を通じて、児童に夢を抱かせた。

2. 事業費等の推移(単位:円)

節区分	説明等	R4	R3	R2	R4-R3比較
7.報償費	講師謝礼	1,031,240	1,006,040	495,000	25,200
8.旅費	講師旅費		39,146	7,110	▲ 39,146
10.需用費	消耗品	457,726	578,745	450,882	▲ 121,019
13.使用料及び賃借料	講師有料道路通行料		6,250		▲ 6,250
事業費総額・・・①		1,488,966	1,630,181	952,992	▲ 141,215
財源内訳	特定財源				
	国庫支出金				
	県支出金		250,000	150,000	▲ 250,000
	地方債・・・②				
その他・・・③	ふるさと創生基金繰入金	1,400,000	200,000	100,000	1,200,000
	一般財源・・・④	88,966	1,180,181	702,992	▲ 1,091,215

3. 一般財源等の額及び割合

一般財源等の額・・・②+③+④	1,488,966	1,380,181	802,992
事業費総額に占める一般財源等の割合・・・(②+③+④)/①	100.0%	84.7%	84.3%

4. 受益者あたりの事業費

受益者	市立小学校児童数	単位	R4	R3	R2	R4-R3比較
区分	受益者数・・・⑤	人	1,431	1,446	1,420	▲ 15
	受益者あたりの事業費・・・①/⑤	円	1,041	1,127	671	▲ 87

5. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値	単位	R4	R3	R2	R1
事業数	事業	65	57	48	60

《変化の理由》

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため中止する事業があり、減少した。
 令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながらマンネリ打破に向けて新たな事業にも取り組み、事業数が増加した。
 令和4年度は、新型コロナウイルス感染症もだいぶ落ち着いてきたため、各校で対策を徹底しながら取り組み、事業数が増加した。

【2】事業の成果を表す数値	単位	R4	R3	R2	R1
事業参加児童数(のべ人数)	人	3,847	3,823	2,059	3,337

《変化の理由》

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため中止する事業があり、参加児童数が減少した。
 令和3年度は、各校で新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら取り組み、事業数の増加に伴い参加児童数も増加した。
 令和4年度も、各校で新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら取り組み、事業数の増加に伴い参加児童数も増加した。

6. 今後の方向等

現在認識している課題	各校が継続して取り組む活動を実施することで、各校の特色ある活動(ふるさと愛の醸成につなげる体験活動)として定着させることをめざしているが、活動がマンネリ化しないよう、取組内容を段階的に充実させる必要がある。
今後の方向、見通し、対応策等	各校の特色ある活動として、継続して同じ内容に取り組む伝統的的事业を1つ目の柱、そして、2つ目の柱として、現在の児童の現状や社会情勢を反映させた取組を各校で学校運営協議会と協議しながら設定することで、事業のマンネリ化を防ぎ、特色ある学校づくりを充実させていく。

7. 一次評価

評価	評価理由
○ 拡充	地域教材を活用し、地域に住む人々や自然、歴史的な遺産等に触れる体験を通してあさごの良さを知り、それを発信できる力を育成するため、継続した事業実施が必要である。
○ 継続	
○ 改善	
○ 縮小・段階的廃止	
○ 廃止	

8. 外部評価

評価	評価理由
○ 拡充	
○ 継続	
○ 改善	
○ 縮小・段階的廃止	
○ 廃止	

9. 二次評価

評価	評価理由
○ 拡充	
○ 継続	
○ 改善	
○ 縮小・段階的廃止	
○ 廃止	

令和 5 年度

区分 予算
決算 1

行政マネジメント事務事業シート (R 4 決算)

作成・更新日 主要 1 創生
令和 5 年 6 月 9 日

事務事業名	中学校特色ある学校づくり事業			担当部課	教育委員会事務局 学校教育課		
予算コード	10 - 03 - 02 - 22 - 01			担当者名	山本 喜裕、福田 秀則、土江 彩		
総合計画体系	1.「やりたい」につながる多様な学びで、未来をつくる「人」を育む			事業開始年度	評価区分	評価	
	2.生きる力を育む幼児教育・学校教育の推進			H 17	事業種別	ソフト事業	

1.事務事業の目的、成果、手段

目的 (何のために)	生徒が地域の「歴史」「文化」「人」「産業」に目を向けることにより、「ふるさと愛の醸成」を図る。
成果 (どのような成果を期待するか)	「ふるさと朝来の未来を担う人づくり」をめざし、各学校で、ふるさとの豊かな自然や伝統文化、そこに暮らしている人々との触れ合いを通して、あさごの良さを知り、それを発信する力を育成することができる。
手段 (どんな事業を実施して) 【事業内容】	生徒に「生きる力」を培うことを目的として、それぞれの学校で特色ある実践事業を展開した。 各学校で、地域教材を活用し、地域に住む人々あるいは自然や歴史的な遺産等に触れる体験を通して、自尊感情や郷土愛の向上を図った。 広く社会で活躍されている地域の専門家、大学教授や一般企業の方などを学校に招聘し、専門的な授業や講演を通じて、生徒に夢を抱かせた。

2. 事業費等の推移(単位:円)

節区分	説明等	R4	R3	R2	R4-R3比較
7.報償費	講師謝礼	549,840	708,600	699,700	▲ 158,760
8.旅費				32,220	
10.需用費	消耗品	199,650	270,185	316,076	▲ 70,535
11.役務費			4,895	32,087	▲ 4,895
13.使用料及び賃借料			43,800	32,087	▲ 43,800
事業費総額・・・①		749,490	1,027,480	1,112,170	▲ 277,990
財源内訳	特定財源 国庫支出金				
	県支出金		220,000	226,000	▲ 220,000
	地方債・・・②				
	その他・・・③	ふるさと創生基金繰入金	700,000	100,000	100,000
	一般財源・・・④	49,490	707,480	786,170	▲ 657,990

3. 一般財源等の額及び割合

一般財源等の額・・・②+③+④	749,490	807,480	886,170
事業費総額に占める一般財源等の割合・・・(②+③+④)/①	100.0%	78.6%	79.7%

4. 受益者あたりの事業費

受益者	市内中学校生徒	単位	R4	R3	R2	R4-R3比較
区分	受益者数・・・⑤	人	669	689	736	▲ 20
	受益者あたりの事業費・・・①/⑤	円	1,120	1,491	1,511	▲ 371

5. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値	単位	R4	R3	R2	R1
事業数	事業	16	11	11	14

《変化の理由》

令和2、3年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため中止する事業があり減少したが、令和4年度は各校で新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら取り組み、事業数が増加した。

【2】事業の成果を表す数値	単位	R4	R3	R2	R1
事業参加児童数(のべ人数)	人	1,261	988	1,051	1,699

《変化の理由》

令和2、3年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため中止する事業があり減少したが、令和4年度は各校で新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら取り組み、事業数が増加した。

6. 今後の方向等

現在認識している課題	各校が継続して取り組む活動を実施することで、各校の特色ある活動(ふるさと愛の醸成につなげる体験活動)として定着させることをめざしているが、活動がマンネリ化しないよう、取組内容を段階的に充実させる必要がある。
今後の方向、見通し、対応策等	各校の特色ある活動として、継続して同じ内容に取り組む伝統的的事业を1つ目の柱、そして、2つ目の柱として、現在の生徒の現状や社会情勢を反映させた取組を各校で学校運営協議会と協議しながら設定することで、事業のマンネリ化を防ぎ、特色ある学校づくりを充実させていく。

7. 一次評価

評価	評価理由
拡充	地域教材を活用し、地域に住む人々や自然、歴史的な遺産等に触れる体験を通してあさごの良さを知り、それを発信できる力を育成するため、継続した事業実施が必要である。
継続	
改善	
縮小・段階的廃止	
廃止	

8. 外部評価

評価	評価理由
拡充	
継続	
改善	
縮小・段階的廃止	
廃止	

9. 二次評価

評価	評価理由
拡充	
継続	
改善	
縮小・段階的廃止	
廃止	

事務事業名	わくわくオーケストラ教室事業	担当部課	教育委員会事務局 学校教育課		
予算コード	10 - 03 - 02 - 24 - 01	担当者名	山本 喜裕、田中 雅人、片山 樹莉		
総合 計画 体系	1.「やりたい」につながる多様な学びで、未来をつくる「人」を育む	事業開始年度	評価区分	評価	
	2.生きる力を育む幼児教育・学校教育の推進	H 17	事業種別	ソフト事業	

1.事務事業の目的、成果、手段

目的 (何のために)	学校教育の中で本格的な楽団の演奏に親しむ機会を設け、音楽を愛好する心を育み、豊かな情操や感性を身に付けた人材の育成を図る。
成果 (どのような成果を期待するか)	豊かな情操や感性を身に付け、演奏された音楽を育んだ民族の歴史を知ることなどにより、他国の文化に対する理解や寛容の心が育つ。
手段 (どんな事業を実施して) 【事業内容】	市内中学1年生を対象とし、やぶ市民交流広場でのオーケストラ演奏を聴く。 新型コロナウイルス感染症の感染リスクが懸念されることから、救済措置として、令和4年度に限り但馬公演が実施された。

2. 事業費等の推移(単位:円)

節区分	説明等	R4	R3	R2	R4-R3比較
13.使用料及び賃借料	バス借り上げ	616,000			616,000
事業費総額・・・①		616,000			616,000
財 源 内 訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債・・・②				
	その他・・・③				
一般財源・・・④		616,000			616,000

3. 一般財源等の額及び割合

一般財源等の額・・・②+③+④	616,000			
事業費総額に占める一般財源等の割合・・・(②+③+④)/①	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	

4. 受益者あたりの事業費

受益者	参加生徒数	単位	R4	R3	R2	R4-R3比較
区分	受益者数・・・⑤	人	214			214
	受益者あたりの事業費・・・①/⑤	円	2,879	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

5. 成果指標等

【1】事業の活動を表す数値	単位	R4	R3	R2	R1
わくわくオーケストラ教室事業参加校	校	4			4

《変化の理由》

市内中学校(4校)を全て対象としている。令和2、3年度は新型コロナウイルスの影響により中止。

【2】事業の成果を表す数値	単位	R4	R3	R2	R1
わくわくオーケストラ教室事業参加人数	人	205			226

《変化の理由》

令和2、3年度は新型コロナウイルスの影響により中止。令和4年度、事業再開したことによる増。

6. 今後の方向等

現在認識している課題	<ul style="list-style-type: none"> ・県からのバスの利用補助はあるが、バス費用が高騰しているため、保護者負担が必要となる。 ・開演時間調整等のため一か所見学地を回っている現状がある。
今後の方向、見通し、対応策等	徐々に市負担から保護者負担に切り替えを図る。

7. 一次評価

評価	評価理由
○ 拡充	子どもたちに、豊かな情操や感性を身につける人材を育成するうえで、有益な事業である。
○ 継続	
改善	
縮小・段階的廃止	
廃止	

8. 外部評価

評価	評価理由
拡充	
継続	
改善	
縮小・段階的廃止	
廃止	

9. 二次評価

評価	評価理由
拡充	
継続	
改善	
縮小・段階的廃止	
廃止	